

乳幼児視力検査-Landolt 環(字ひとつ・単一)近見視力検査

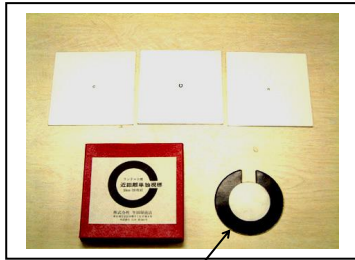


目的

読み分け困難のある幼児に対する
近見視力測定

準備物 ランドルト環近距離字ひとつカード・近見用ランドルト環の模型

近距離字ひとつ視力カード



近見ランドルト環の模型

被検者の眼前で、(近距離)字ひとつカードの大きな視標(0.1の視標)のランドルト環を見せ、答え方の練習をさせる



上下右左の切れ目を指差しさせるか、言葉で答えさせるか、又は近見ランドルト環の模型を持たせ視標の方向と一致させるよう回転できるように持ち変える練習もする。
近見ランドルト環の模型が被検者には小さすぎて扱いにくい場合、5m用の模型を利用して良く、車の運転のように楽しんでも行う場合もあるし、近見用でアリスさんのハンドルだよ！と言って上手に動かせるかな？と声かけするなど、検者の動機づけによって可否が決まる要素が大きいので、どうしても出来ない場合、家で練習をしてもらうこと。

目的は何かを考え、片眼にするか、両眼にするか、左右眼どちらを先にするか、決定する



初めての場合、練習の意味で視力が良いと思われる眼から測定する人が多いがケースバイケース。
片眼視力を知りたいが、遮閉板やアイパッチをどうしても嫌がる場合、アイパッチに好きなシールを貼る、親も一緒に眼帯する、親の膝にのせ親の手で被検者の片眼をハンカチで押さえる、など色々工夫すること。

視標は上・下・左・右の4方向とし斜めは出さず被検者に方向を変えている途中を見せず近見字ひとつカードをなるべく視線と直角に紙面の反射がないように30cmで持ち、最も大きい視標が正答できるかを確認する



幼児の場合は比較的提示時間をゆっくりとするが、原則は2〜3秒とすること。視標を提示する時、紙面を汚さないように。

予想される視力値より大きい目の視標は手早く、被検者の答え方により視標を時には飛ばしたり、確認したりして順に小さな視標まで答えさせる



被検者の答え方により視標を飛ばしたり、確認する視標と省く視標の見極めが大切である。誉めたり励ましたりして、意欲を持たせるようにすること。

正解が半数以下になった！

視力は正解が半数以下の1段階上の視標だね。
3/5以上又は教科書によっては3/4以上としているものもある。



過半数見える視力が得られる
その最小の視標が小数視力値

結果・記載例)

近見字ひとつカード

R.V.(v.d.)=0.7

L.V.(v.s.)=0.5まで



近見字ひとつカードであることを記載する。
飽きたりして集中力がなくなり途中で検査が不可能となった場合、測定できた視力値と、まで、と記載する。
例) L.V.=0.5まで
左右差の反応など、視力の手がかりとなるコメントもあれば記載する。